

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和 6年 3月 1日

事業所名 Atelierみるく首里

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	10	1		・事務所も新しく増えた	・スペースはゆとりを持って確保しています。
	2	職員の配置数は適切である	11				
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	9	2		・エレベーターの設置とフロアのバリアフリー	・バリアフリー、ユニバーサルデザインの建築です。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	9	2		・出勤回数が少ない職員との情報共有がもっとできるとよい ・毎週会議内容を共有できている	・レッスン時間のみ出勤する芸術専門講師に対しては、職員会議の内容を毎週共有している。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	10	1		・家族との連絡が密	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	9	2			・法人のホームページにて公表している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	9	2			
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	10	1		・県外研修させてもらった	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	11				
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	10	1		・検査を受けたことがある場合は結果を見せてもらい参考にする。必要を感じたら受けることを薦める	・医療機関で受けた検査データを共有していただいたり、事業所内で標準化された検査ツールを使用したりして、利用者様の特性や現状を把握するよう努めている。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	11			・原案を作り、他のスタッフと検討している ・親子で聞くオペラ公演の際、サポートがありました。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	10	1			・長期休暇期間や季節の折に、特別プログラムを企画して実施している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	8	3			
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	10	1			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	10	1			
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	10	1		・職員間で話し合いが行われている	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	10	1		・スタッフによって、記述内容に差がある。計画を意識しての記述を心がけたい。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	11			・定期的のみならず送迎の時など、随時保護者と情報共有している	・ご家族に対し定期的に聞き取りをし、レッスンの担当職員と児発管が計画立案や見直しをおこなっている。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	7	4		・ガイドラインを定期的を確認する必要がある		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	11			・児童発達支援管理責任者だけでなく直接支援している担当者もつとできるだけ出席する	・直接支援を担当している職員を可能な限り参加させている。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	10	1			・保育所等訪問支援や関係期間連携の要望がある利用者に対しては、担任の先生や学校長とも、連携を取り、情報共有をお願いしている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	10	1			
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	8	3		・必要時のみ情報共有している	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	8	3		・要望があれば情報提供している	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8	3			
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	9	1		・交流の時間を設けている ・てい〜だキッズとのインクルージョンクラスがある	・個別レッスンではなく、小集団の活動を選択している利用者はインクルージョンで活動する機会を多く設けている。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	6	5		・研修に参加している	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	11			・送迎時に随時話をするようにしている	・送迎時にご家族との情報共有を大切にしている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	6	1	4		・ペアトレプログラムは実施していないが、インクルージョンクラスに参加している保護者は勉強会がある。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	10	1			・契約時に詳細を丁寧に説明している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	11			・職員は親身に対応している	・いつでも個別に相談を受け付けており、対処についても一緒に考えるようにしている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6	5		・コロナも落ち着いてきたのもっとできると良い	・父母の会という組織は無いが、有志の父母によって開催する食事会や交流を促している。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	11			・契約時に説明している	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9	1	1		
	35	個人情報に十分注意している	11				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	11				
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	7	4		・演奏会や作品展等を地域に案内している	・週末に地域の方々に開かれた行事を開催している。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	11				・各種マニュアルは、職員も保護者もいつでも見れる場所に設置している。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	10	1			・職員のための訓練を毎年2回実施しており、その報告を事業所で掲示している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	11				・毎年、法人全体で研修会を開催している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	11				・職員の研修において、安全上の理由からやむを得ず身体拘束が必要な場合の取り決め等を職員間で確認しあっている。保護者に対しては、契約時にご説明している。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8	3		・おやつは基本的に出していない	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8	3		・職員間での共有をさらに深めたい	